

平成 30 年度学校評価（自己評価）について

幼稚園における学校評価については、園における教育活動等の成果や取り組みを検証することにより、園の運営を園のみでなく、保護者や地域の皆さんの理解と協力を得ながら園の環境整備を含め、幼児教育をより良い充実したものにするために実施しています。

平成 30 年度の学校評価を（自己評価）を実施しましたのでその結果を公表し、今後の園運営に生かしていきます。

1、教育目標及び理念

- *自然からの恩恵ときびしさを感じ、自然を愛する子ども
- *自分で考えて、工夫して、やり通すことが出来る子ども
- *夢や希望やあこがれを持つことが出来る子ども

<自然をしぜんに>

自然を、“しぜん”に優しく受けとめる事が出来る気持ちの優しい、心豊かな、特性のある子どもたち、そして自然のきびしさも感じる事が出来る心を育てて行きたいと、私たちは願っています。そして子どもたちの心に優しい愛と夢を育てることを教育目標にしています。

2、評価結果

本年度から認定こども園へ移行し、教育内容はそのままにより充実した保育を心掛けて子ども達に向き合ってきました。新規採用の教員 2 名も園の運営について理解し、各々の課題をもって保育にあたっていることが分かります。但し、認定こども園に移行し、教職員間での話し合いの時間を設けることがより難しくなったことが課題であるように思います。

	評価項目	結果	内 容
1	保育の計画性	A	園の教育目標を常に意識し、異年齢での活動の幅を広げるような保育の計画立案をしています。指導計画が画一的にならないように、常にフィードバックを繰り返しています。
2	保育の在り方、幼児への対応	A	園児が考えたり、工夫したり出来るように適切な配慮を行っています。保育の主役は”子ども“であることを心に留めています。
3	教師としての資質や能力・良識・適正	A	社会人としての一般的な常識を具え、尚且つ教師としての自覚を持って日々生活をしている。職務上知り得たプライバシーに関しての情報について、漏らすことのないように特に心掛けています。
4	保護者への対応	A	認定こども園に移行し、教育内容等で入園させた場合以外の保護者への対応、啓蒙に十分に注意が必要ではあるが、概ね適切な保護者対応を行っていると思う。
5	地域の自然や社会とのかかわり	A	学園の役員さんからのボランティアによって、様々な学びを得ることが出来た年でした。今後も社会とのつながりの大切さを職員が理解して、園児に伝えていきたいとします。
6	研修と研究	B	園内研修 6 回を行うも、単発的な研修に留まったように思います。統一したテーマで深まりを持つようにしていきたいと考えます。